

株主の皆様へ

株主の皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

ここに当社第74期の報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

情報・通信機器市場の低迷は緩やかに底を打ち、電子部品市場も概ね回復基調に転じましたが、中国メーカーの台頭等により市場価格の下落が予想を上回るスピードで進み、企業を取りまく環境は一層厳しさを増しております。

このようななかで当社は、経営体制強化および意思決定のスピードアップのため取締役会を改革し、執行役員制を導入するとともに、国内生産拠点の一層のスリム化と海外拠点の効率的活用を中心としたローコストマニュファクチャリングの体制構築に注力いたしました。そのために100%子会社のいわき電子株式会社の統合、電池製造部門の分社化、国内人員の削減、海外生産拠点の生産能力強化等を実施し、業績の回復に努めました。しかしながら、当期は昨年前半まで海底用を中心に需要のあった光通信用部品の落ち込みが大きく、売上高は前期を下回りました。損益面につきましては、徹底したコスト削減に努めました結果、営業利益は前期に対して改善しましたものの、為替差損その他の営業外費用の増加等により営業外収支が悪化し、また、事業構造改革に伴う特別損失を計上いたしました結果、当期損失は54億43百万円となりました。

株主の皆様にはこのような不本意な結果になりましたことを、深くお詫び申し上げます。

今期は、イラク戦争後の景気への影響や新型肺炎SARSの進行が懸念されるなか、厳しいスタートとなりましたが、ブロードバンドインターネット、ユビキタスネットワークとその周辺機器、インテリジェント化が進むカーエレクトロニクスの先進分野、また、アミューズメント、環境分野へも積極的に製品を投入し、グローバルでの販売活動を強化することにより、売上の向上を図ってまいります。さらに、国内外の事業拠点の固定費圧縮や資産の徹底した効率化を着実に推進し、業績の回復と安定した事業体質の構築に全力で努力する所存でございます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成15年6月
代表取締役社長 **鈴木 惟司**

